

要 旨

小学校外国語活動の目標で最も重視すべき点は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることとされている。そのためには、人との関わりを大切にしたい取組が必要だと考える。そこで、本研究では、英語ノートを基に単元を構成していく中で、英語表現に慣れ親しみながらペアやグループで課題を解決する活動を毎時間設定し、そこから生まれる友達や自分に関する気付きを引き出し、児童が自信をもって活動に取り組めるようにした。これらを積み重ねることで、児童は、活動そのものだけでなく、人との関わりを楽しめるようになってきた。

〈キーワード〉 ①人との関わり ②ペア・グループ活動 ③振り返り

1 研究の目標

進んで人との関わりを楽しむ児童を育成するために、外国語活動において、「聞きたい」「伝えたい」という思いが高まるような指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

社会や経済のグローバル化が急速に進展している現代社会においては、広い視野をもち、異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々とともに生きていくことができる児童の育成が求められている。しかし今日、児童を取り巻く環境は、生活が便利になっていく一方で、人と人が直接的にコミュニケーションを図る機会が少なくなっている状況にある。このような中で生きていかなければならない児童にとっては、様々な人々と関わり、自分を表現し、他者を理解し、思いや考えを伝え合うためのコミュニケーション能力を育成していくことが重要である。

このような背景から必修化された外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」¹⁾である。このことは、英語のスキルを求めるのではなく、異なる言語や文化に触れる体験や音声言語や非言語を使用した様々な活動を通して、人と積極的に話をしようしたり、人の話を一生懸命に聞こうしたり、人と交わろうとしたりするなどの進んで人と関わろうとする意欲や態度を育てることを求めている。そのためには、児童がコミュニケーションを図ろうとする場面を設定することに加えて、相手のことを知ったり自分のことに気付いたりする体験を積み重ねていくことが重要であると考えられる。

そこで、本研究ではグループの研究テーマ、研究課題を受け、外国語活動において、人との関わりを楽しむ児童を育成する指導の在り方を探っていくこととする。単元の中で、「聞きたい」「伝えたい」と感じるような課題解決場面やタスクを設定することを工夫し、言葉を上手く使えなくてもジェスチャーなどを交え自分のことを伝えたり、相手のことを理解したりして意思疎通を図ることや人と関わることの楽しさを味わわせていく。そして、活動の中で気付いた友達のよさや頑張りを認めていくようにする。

以上のような人と相互に関わり、関わりの中から生まれる達成感や互いのよさを認めていく体験を積み重ねていくことが、自分と異なる文化に気付くとともに、もっと様々な人と進んで関わろうとする意欲や態度を育てていくことにつながると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

外国語活動において、ペアやグループで課題を解決する活動を設定し、友達や自分のよさを見いだしていくことを積み重ねていけば、進んで人と関わろうとする意欲や態度が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 外国語活動の目標及び、活動内容、評価についての理論研究
- (2) 外国語活動やコミュニケーションに関するアンケート調査を基にした児童の実態調査
- (3) 授業実践並びに手立ての検証及び考察

5 研究内容

- (1) 小学校学習指導要領解説外国語活動編や英語ノート指導資料、先行研究、その他の文献等を基に、情報収集や理論研究を行う。
- (2) 事前にアンケート調査を行い、その結果を分析し、単元構成や活動の工夫を行うときの基礎資料とする。事後のアンケート調査や授業観察より意欲や態度の変容を見る。
- (3) 所属校6年生における単元「行ってみたい国を紹介しよう」(3時間)と「自分の1日を紹介しよう」(3時間)を用いた授業実践を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

ア 外国語活動について

金森は、「外国語活動を通して人と関わる楽しさを体験すること、簡単な英語を使って自分のことを表現する機会、友達から受け止めてもらう機会を持つことは、基本的な『人と関わり合う』体験を取り戻すことにもなり、社会性の育成の面からもたいへん意義がある」²⁾と述べている。

また、萬谷は、「外国語が『言える』『分かる』ということだけにとどまらずに、そうした慣れ親しみによって『相手のことを知ることができた』『人とつながることができた』という快い体験を与える授業を目指したい」³⁾と述べている。

イ 活動の形態について

金森は、「友達とのペアやグループでの活動が生まれやすい外国語活動だからこそ、他者と関わり協力する、共同(協働)学習としての意義ある活動をめざしたい」、「友達と一緒に何かを成し遂げた喜びや、友達とふれあって笑顔になる体験も、十分に学習の動機づけになる」⁴⁾と述べている。

また、萬谷は、「初めての外国語との出会いでもある小学校外国語活動では、できうる限り『児童の心が開いた状態』をつくりだし、他者とのかかわりの不安を軽減したい」、「活動設定にあたって適切な活動形態を選び、『自分もできそう』『怖くない』という気持ちにさせる配慮が必要である」⁵⁾と述べている。

ウ 振り返りについて

金森は、「自らの『学び』について『振り返り』を持つことは、確かな自信につながるだけではない。活動に関する相互評価によって生まれる友達同士のふれあいや共同学習は、学びの志向性を高めるためにも利用できる」、「週に1時間の小学校における『外国語活動』であるからこそ、『振り返り』の時間をいかに効果的に用いるかが重要であり、そのことが、中学校『外国語科』との違いとして大切にされるべき点であるとも言える」⁶⁾と述べている。

また、影浦は、高学年の児童の特性について、「自分を客観視する力がついてくるが、それはまだ未熟であり友達との比較を通して行われる。つまり、友達からの評価やフィードバックによって自分の行動をチェックし、自信をもったり、劣等感に陥ったりする」⁷⁾と述べている。

エ 研究の全体構想

これらの考えを受け、本研究では、進んで人と関わろうとする意欲や態度を育てるために、ペアやグループで課題を解決する活動を取り入れ、さらに、その活動によって感じられた友達や自分のよさ、頑張りを認めていく振り返りの場を工夫した指導の在り方を研究することとした。

(2) 児童の実態把握

事前に「外国語活動についてのアンケート」を行った。「外国語活動は楽しい」と「思う」児童は55% (16名), 「だいたいそう思う」児童は38% (11名)であった。しかし, 「外国語活動では, 先生や友達と一緒に活動できるから楽しい」児童は45% (13名), 「外国語活動で, 友達のよさや頑張りを見付けることができる」児童は21% (6名)であった。これらの結果から, 外国語活動は楽しいと思いつながらも, 友達と関わって楽しいと感じている児童は少ないことが分かった。

(3) 授業の実際と考察

ア 検証授業について

検証授業は, 英語ノート2を基に, 単元を構成した(表1)。単元内の全ての時間に, 英語表現に慣れ親しみながらペアやグループで課題を解決する活動を設定し, そこから生まれる自分や友達に関する気付きを引き出していくようにした。このような活動と気付きの積み重ねによって人との関わりへの意欲が高まるように, 活動のレベルを意図的に高めていったり, 振り返りの項目を精選したカードを用いて, 児童の気付きを有効に生かせるような場を作ったりするなどの工夫をした(図1)。設定した活動における行動観察と振り返りの発言や記述, 事前事後のアンケート調査によって, 意欲や態度の変容を見るようにした。

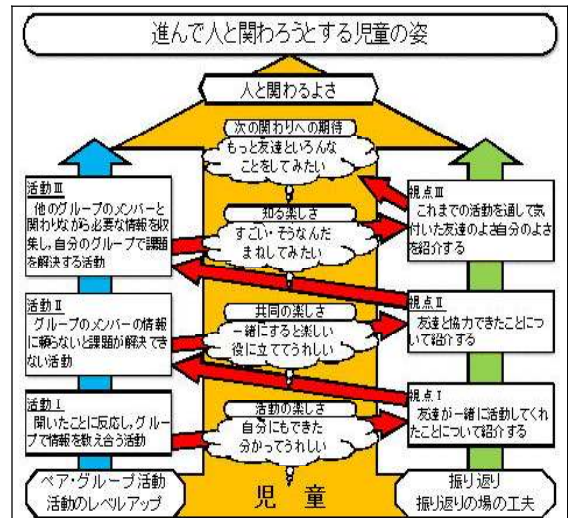


図1 単元の進め方に関する基本構想図

表1 検証授業の単元構成

検証授業① (英語ノート2 Lesson6 「行ってみたい国を紹介しよう」) 児童数29名			
1時目(HRTのみ)	2時目(LTPとのTT)	3時目(HRTのみ)	4時目(HRTのみ)
1 国旗クイズをする。 (ペア)(活動Ⅰ) ・ 逆様になると, 国名が変わることなどに触れる。 2 Let's Listen p36 (ペア)(活動Ⅰ) ・ デジタル版を途中で切りながら, HRTと英語ノートの子どもたちが会話しているように聞かせる。 3 どこで国でしょうクイズをする。 (グループ)(活動Ⅰ) ・ ヒントから国旗, 国の特色, 国名をグループで考えさせる。 4 Let's Chant p37 ※ 振り返り(視点Ⅰ) HRT…学級担任 ALT…外国語指導助手 LTP…地域人材	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅰ) 1 Let's Listen p39 (ペア)(活動Ⅰ) ・ 英語ノートの台詞をLTPにインタビューする形で行い, 行ってみたい国とその理由を聞かせる。 2 世界遺産を知る。 3 ビンゴゲームをする。 (グループ)(活動Ⅰ) ・ 4×4のビンゴシートに, 紹介した国々の中から選んで国名を書かせる。 4 行ってみたい国クイズをする。 (グループ)(活動Ⅰ) ・ グループで情報を教え合い, 聞く・伝える必然性をもつことができるようにする。 ※ 振り返り(視点Ⅰ)	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅰ・Ⅱ) 1 Let's Listen p40 (ペア)(活動Ⅰ) ・ デジタル版を途中で切りながら, HRTと英語ノートの子どもたちが会話しているように聞かせる。 2 メモリーゲームをする。 (グループ)(活動Ⅰ) ・ グループで相談しながら解決していくことにより, 友達との協力を促す。 3 先生方の行ってみたい国クイズをする。 (グループ)(活動Ⅱ) ・ グループのメンバーが交代で個々に情報を受け取り, 先生方の行ってみたい国を協力して答えていくようにする。 ※ 振り返り(視点Ⅱ)	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅱ・Ⅲ) 1 ラッキーカードゲームをする。 (グループ)(活動Ⅰ) ・ 簡単な英語や身振りで児童とのやり取りをする。 2 おすすめ世界旅行パンフレットを作る。 (グループ)(活動Ⅲ) ・ 国旗絵カードとその国に行ってみたい理由が分かる絵カードを他のグループから集めさせる。 3 パンフレットの紹介をする。 (グループ)(活動Ⅲ) ・ グループでの協力を意識して活動を進めさせ, みんなでできた達成感を味わわせる。 ※ 振り返り(視点Ⅲ)
検証授業② (英語ノート2 Lesson7 「自分の一日を紹介しよう」) 児童数29名			
1時目(HRTのみ)	2時目(ALTとのTT)	3時目(LTPとのTT)	4時目(HRTのみ)
1 バズゲームをする。 p44 (ペア)(活動Ⅰ) ・ 13以降の言い方が12までと変わることに触れる。 2 ビンゴゲームをする。 (ペア)(活動Ⅰ) ・ 5×5のビンゴシートに, 60までの数の中から選んで数字を書かせる。	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅰ) 1 What timeカルタゲームをする。 (ペア)(活動Ⅰ) ・ ALTに一日の生活について尋ねながら, ゲームを進める。 2 メモリーゲームをする。 (ペア)(活動Ⅰ)	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅰ・Ⅱ) 1 ジェスチャーゲームをする。 p47 (ペア)(活動Ⅰ) ・ LTPに一日の生活について尋ねながら, ゲームを進める。 ・ 絵カードも使って紹介する。 2 誰の一日クイズをする。	※ 前時の人との関わりについての気付き(視点Ⅱ・Ⅲ) 1 一日の生活表を作る。 (グループ)(活動Ⅲ) ・ 表を作成するには, 動作絵カードを他のグループから集めさせ, 白紙のカードにはオリジナルな事柄を書かせる。 2 自分の一日を紹介する。

<p>3 聞いた時刻はどこの国クイズをする。 (グループ) (活動Ⅰ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒントからどの国なのかをグループで考えさせる。 Webサイトで、主な都市の現在の様子を確認させる。 日本の時刻と世界の各都市の時刻を比較し、時差があることを知らせる。 <p>4 Let's Chant p44 ※ 振り返り(視点Ⅰ)</p>	<p>3 ラッキーカードゲームをする。 (グループ) (活動Ⅰ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTから中学校の情報も伝えてもらうようにする。 <p>4 世界は今何時ゲームをする。 (グループ) (活動Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達やALTと情報交換しながら、協力してワークシートを完成させる。 <p>※ 振り返り(視点Ⅰ)</p>	<p>(グループ) (活動Ⅰ)</p> <ul style="list-style-type: none"> LTPに質問しながら、誰の一日かをグループで予想させる。 ヒント画像を電子黒板で示す。 <p>3 どこの国の小学生クイズをする。 (グループ) (活動Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 集まった児童に、個別の情報を与える。 外国の小学生の生活を協力して答えていくようにする。 <p>※ 振り返り(視点Ⅱ)</p>	<p>(グループ) (活動Ⅲ)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで簡単な英語やジェスチャーを使ってやり取りをさせる。 <p>3 私は誰でしょうクイズをする。 (グループ) (活動Ⅲ)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの協力を意識して活動を進めさせ、みんなでできた達成感、人のことを知る楽しさを感じさせる。 <p>※ 振り返り(視点Ⅲ)</p>
---	--	---	--

イ 児童の様相と考察

(ア) ペア・グループ活動について

単元内の全ての時間に、英語表現に慣れ親しみながらペアやグループで課題を解決する活動を設定した。活動Ⅰは、友達の存在のよさを感じる活動で、担任からの幾つかの情報をメンバーが一斉に受け、それぞれが聞き取ったことを基にペアやグループで課題を解決していくようにした。検証授業①の2時目「行ってみたい国クイズ」では、担任と地域人材の先生との、英語やジェスチャーでのやり取りを聞き、2人の先生の行ってみたい国はどこかをグループで答えるようにした。グループ内で相談できるので、児童は、部分的にしか聞き取ることができなくても安心して活動を楽しむことができた。活動Ⅱは、グループ内の関わりを深める活動で、メンバーが交代で個々に情報を受け取り、それを他のメンバーに伝えることで、友達との関わりを必然性を高めるようにした。検証授業①の3時目「先生方の行ってみたい国クイズ」では、4名の先生方の行ってみたい国の情報を英語と視聴覚教材を使って個々に与え、それらの情報を基にグループで協力して答えを出すようにした。また、検証授業②の2時目「世界は今何時ゲーム」では、インフォメーションギャップのある活動を利用した。グループの一部の児童だけでは課題が解決できないため、児童同士に積極的な相互依存が生まれ、より相手の存在を意識して、関わりを楽しもうとする様子が見られた。活動Ⅲは、達成感や満足感を共有する活動で、メンバーそれぞれが役割を担って他のグループと関わり、再びグループ内でやり取りをしてみんなで課題が解決できたという達成感を味わわせるようにした。検証授業②の4時目では、自分たちの1日の生活表を作るために、動作の絵の付いたカードを英語やジェスチャーを使って他のグループから集めるようにした。カードには白紙のものも含まれ、自分のオリジナルの生活表ができるようにし、最後は、クイズ形式で自分のことを伝えたり、友達のことを知ったりする場をつくった。みんなで味わった達成感や相手のことについて新しい発見があって楽しかったことが、振り返りの記述からうかがえた(資料1, 図2)。また、先生や友達と一緒に活動できるから楽しいと感じる児童が増えていった。これは、活動の設定によって相手の存在を必要とし、関わることをおのずと生まれ、一緒に課題を解決しようとすることができたからだと考える。

このように、ペアやグループで取り組む活動を段階を意識して設定したことで、児童は単元が進むにつれて、より人と一緒に何かを成すことよさを感じていった(図3)。

(イ) 振り返りについて

振り返りの場では、ペアやグループ活動によって感じられた自分や友達に関する気づきを引き出

- ・ 前の活動より班の役に立てたし、分かったことがたくさんあったのでよかったです。
- ・ いろんな人が教えてくれたので、ちゃんとカードをそろえることができてよかったです。
- ・ グループの人に紹介したら、しっかり聞いてくれたのでうれしかったです。
- ・ 他の班と関わったり自分のことを言ったり、友達の日を聞いたりして楽しかったです。

資料1 児童の記述①

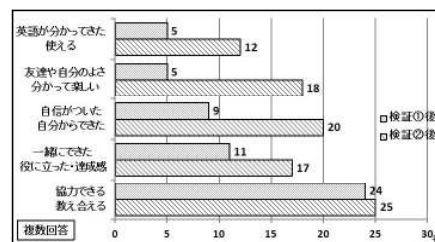


図2 記述の変容

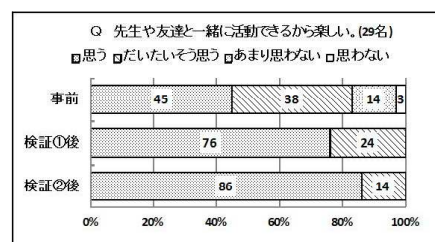


図3 アンケート結果①

していくようにした。単元の全時間を一覽できるカードを用いて授業の終わりに気付きを書かせ、数名の児童に発表させたり記述した内容を紹介したりする認め合う時間を設定した。振り返りを効果的に活用するため、視点Ⅰ～Ⅲのように各時間で振り返りの視点を明確にし、児童の活動の様子と振り返りの記述から視点を意識したキーワードを拾ってコメントを返した。また、次時の導入には、振り返りカードを開かせ、記述の中から主にその時間の視点に関わる気付きを紹介し、児童がそれを意識してペアやグループ活動に取り組めるようにした。積極的に取り組めていない児童には、振り返りカードにできているところやよくなっているところを自覚させるようにコメントすることで、取組の様子が徐々に積極的になってきた。一人一人の児童の思いを知ることで、指導に生かしたり、励ましたり認めたりすることができた。このような工夫によって、児童の記述には、友達のよさを発見したことや友達と一緒にやってみようということが書かれ、次の関わりへの意欲となることが読み取れた。また、英語で伝えることができたことや友達から褒めてもらってうれしかったことも書かれ、できるようになり自信を付けていることもうかがえた(資料2, 前頁図2)。さらに、友達のよさや頑張りを見付けることができる児童が増えていった(図4)。これは、振り返りの工夫によって人に目が向くようになり、人との関わりを意識できるようになってきているからだと考える。

- ・ 他の班にカードを渡すときに友達がフォローしてたりしていたのがよかったですと思います。
- ・ 班で課題が解決できました。他の人の時間と違うのか聞いてみたいです。
- ・ 今日はペアの人にほめられてうれしかった、今度も教えたり教えられたいです。
- ・ カードをもらいに行くときも英語で言えたので、英語に自信ができました。

資料2 児童の記述②

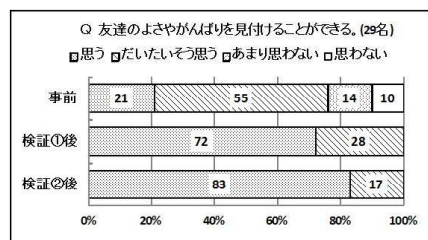


図4 アンケート結果②

このように、教師が視点をもって振り返りをさせたことで、児童は相手や自分への気付きをより多くもち、人を知ることのよさを感じていった。

(ウ) 活動と振り返りの積み重ねについて

活動と振り返り、教師の言葉によって、児童の人との関わりへの意識をつなげていくことを単元を通して積み重ねていくことで、児童は人との関わりへの楽しさを見だし、それが関わりへの意欲や態度の変容につながった。

検証授業では、事前のアンケート調査や学級担任から聞いた普段の学習や生活の様子から児童を3群に分けた。A群(8名)は、日頃から友達との関わりもよく、外国語活動にも楽しく参加している群で、C群(8名)は、友達との関わりや外国語活動への取組が積極的ではない群、B群(13名)は、中間層とした。検証授業②の児童の記述を見ると、A群からは、様々な人と様々な関わりを更に求めようとしていることがうかがえる。B群からは、聞いてみよう、伝えてみようとすることや友達や自分のよさにも意識が向いていることがうかがえる。C群からは、自信をもって自分を表現し、友達と関わろうとしていることがうかがえる。さらに、毎時間後のアンケート結果を見ると、どの群も自己評価が高まっている。これらは、友達との関わりが生まれるように、また、児童の意欲が継続・向上するように、聞く・伝えるというコミュニケーション活動のレベルを意図的に高めていったことで、相手の話を聞き、相手とのやり取りを楽しんで行うことができる児童が増えていったからだと考える。また、人との関わりに目を向けるように、振り返りを単元を通して積み重ねたことで、友達のよさに目を向けたり、よさを伝え合ったりできる児童が増え、より関わりたいという思いが高まったと考える(資料3)。

児童の記述より(一部抜粋)

A群	B群	C群
<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと知りたいと思えたこともあったのでとてもよかった。 ・ 自分からしようと思ったり聞こうと思ったりできているので、よくなったと思います。 ・ どんどんしていくうちに前よりグループ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語が分かってきたし、聞いてみようと思うようになりました。 ・ 意見がいっぱい言えたということは、それだけ言いやすい気持ちだったと思います。 ・ やっぱり、自分からやってみようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動をしていくうちに、友達と関わるようになりました。 ・ 前よりも自分から話したりできるようになったので、よかったと思います。 ・ グループ活動では、間違っても恥ずかしくないで、どんどんがんばりたいなあ

の役に立てたし、自分と他の人の違いなどが分かってきて、楽しくなりました。 ・あまりしゃべらないような人もしゃべってみようと思うようになった。	ことが大切だと思う。 ・いろいろな友達のいいところも気付いてきました。 ・自分は積極的になったと思います。	思いました。 ・最初はなかなかペアやグループで話すことができなかったけれど、今は意見を出していくことができる。																																																												
毎時間後のアンケートより																																																														
・相手の話をよく聞き、うなずいたり反応したりした。	・英語やジェスチャーなどを使って、自分の伝えたいことを表現しようとした。	・友達よさに気づき、それを認める発言をした。																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A群 (平均値)</th> <th>B群 (平均値)</th> <th>C群 (平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時目</td> <td>3.9</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>2時目</td> <td>4.0</td> <td>3.9</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>3時目</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>4時目</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>3.9</td> </tr> </tbody> </table>		A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)	1時目	3.9	3.5	3.4	2時目	4.0	3.9	3.5	3時目	4.0	4.0	3.7	4時目	4.0	4.0	3.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A群 (平均値)</th> <th>B群 (平均値)</th> <th>C群 (平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時目</td> <td>3.4</td> <td>3.2</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>2時目</td> <td>3.7</td> <td>3.6</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>3時目</td> <td>3.9</td> <td>3.8</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>4時目</td> <td>4.0</td> <td>3.9</td> <td>3.7</td> </tr> </tbody> </table>		A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)	1時目	3.4	3.2	2.8	2時目	3.7	3.6	3.0	3時目	3.9	3.8	3.4	4時目	4.0	3.9	3.7	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A群 (平均値)</th> <th>B群 (平均値)</th> <th>C群 (平均値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時目</td> <td>3.5</td> <td>3.2</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>2時目</td> <td>3.6</td> <td>3.5</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>3時目</td> <td>3.7</td> <td>3.7</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>4時目</td> <td>3.9</td> <td>3.8</td> <td>3.7</td> </tr> </tbody> </table>		A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)	1時目	3.5	3.2	3.3	2時目	3.6	3.5	3.3	3時目	3.7	3.7	3.4	4時目	3.9	3.8	3.7
	A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)																																																											
1時目	3.9	3.5	3.4																																																											
2時目	4.0	3.9	3.5																																																											
3時目	4.0	4.0	3.7																																																											
4時目	4.0	4.0	3.9																																																											
	A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)																																																											
1時目	3.4	3.2	2.8																																																											
2時目	3.7	3.6	3.0																																																											
3時目	3.9	3.8	3.4																																																											
4時目	4.0	3.9	3.7																																																											
	A群 (平均値)	B群 (平均値)	C群 (平均値)																																																											
1時目	3.5	3.2	3.3																																																											
2時目	3.6	3.5	3.3																																																											
3時目	3.7	3.7	3.4																																																											
4時目	3.9	3.8	3.7																																																											
(思わない…1, あまり…2, だいたい…3, 思う…4)																																																														

資料3 人との関わりへの意欲や態度の変化(検証授業②)

このように、外国語を通して行うペアやグループ活動と振り返りの積み重ねが、外国語活動における人と関わる楽しさに結び付いたと考える。

(エ) 抽出児の変容について

E児はB群に属し、友達と関わろうとはするが、進んで活動に取り組むときとそうでないときがある児童である。外国語活動は大体楽しいと自己評価していた。

E児の記述を見ると、検証授業①の3時目には「教えてもらったりしたのでよく分かった」、単元後には「分かって教えられたので、みんなのためになった」、検証授業②の3時目には「分からなかったところは相談して解決していった」、単元後には「一緒に課題を解決できたときがうれしかった」と記述している。これは、ペアやグループで協力して活動を進めることができ、更に課題を解決できた達成感を感じることができたからだと考える。また、検証授業①の4時目には「他の友達の行きたい国が分かった」、単元後には「グループの人の気持ちがどんどん分かっていった」、検証授業②の3時目には「他の人にも時間を聞いてみたい」、4時目には「他の人の一日が分かって、楽しくなりました」と記述している。これは、友達との関わりの中から、徐々に人のことを知る楽しさに気付いているからだと考える。さらに、自己評価の推移を見ると、どの項目においても高まっており、意欲的に活動に取り組んでいた様子が見える(表2)。

表2 E児の自己評価と記述の変容

検証授業 ①・②	1 今日の活動は楽しかったですか。	2 自分から進んで、先生や友達と関わろうとしましたか。	3 英語をよく聞き、何を言っているのかを考えて活動しましたか。	4 英語を使ってみたり、自分にできる方法で答えたりしましたか。	5 今日のチームワーク度(レベル)は、どうでしたか。	6 今日の自分がんばり度(レベル)は、どうでしたか。
① 1時目	1 2 ③ 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 2 ③ 4
2時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4
3時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4
4時目	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④
② 1時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4
2時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4
3時目	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④
4時目	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④
(思わない…1, あまり…2, だいたい…3, 思う…4)						
① 1時目	いろいろな建物や日本にしかないもの、その国でしかないものや特徴がいっぱいあった。					
2時目	世界にはいろいろな見所や世界遺産がいっぱいあってすごいと思いました。ビンゴゲームもすごく楽しかったです。					
3時目	僕が分からなかったところを 教えてもらったりしたのでよく分かった 。先生達が行きたいパンフレットもできたのでよかったです。					
4時目	他の友達の行きたい国が分かった し、みんなの前でも行きたい国も言えたのでよかったです。友達から写真をもらうときも英語で言えたのでよかったです。もっと友達といろいろなことをやってみたいと思った。					
単元後	分からなかった グループの人の気持ちがどんどん分かっていった ので、楽しく外国語活動ができた。僕は、グループの人が分かっていないところが 分かって教えられたので、みんなのためになった と思う。					
② 1時目	ペアでビンゴゲームなどをしました。先生たちが行った国では、時間が日本とは違ったりしました。					
2時目	友達にいろいろな時間が聞けた。ALTの先生は7時に起きて24時に寝ているなど、ALTの先生のことが分かりました。自分とは同じところもあるし、違うところもあるなあと思いました。					
3時目	僕は、 分からなかったところは相談して解決していった のでよかったです。地域人材の先生と同じところや違うところに気付きました。 他の人にも時間を聞いてみたい です。					
4時目	他のグループに行って、カードをもらった。英語を使ってもらうことができたので、うれしかったです。 他の人の一日が分かって、楽しくなりました 。					
単元後	一緒に課題を解決できたときがうれしかった 。英語もだんだんと慣れてきて使えるようになった。ペアやグループですると、自分のことがどんどん言えるし、教えたり教えてくれたりできるので、だだのゲームより楽しくなりました。					

F児はC群に属し、友達との関わりを苦手としている児童である。自分から友達に声をかけて一緒に何かをすることも少なく、外国語活動をあまり楽しいとは思っていない。

F児の記述を見ると、検証授業①の3時目には「一人じゃ難しかったので協力できた」、4時目には「チームワークがよくなったから、自分の精一杯を出せた」、単元後には「グループの中に入れていったから自分もグループもよくなった」と記述している。これは、ペアやグループで活動を行うことで感じる安心感と、課題を解決するためには自分にも役割があることを自覚して、活動に取り組もうとしていたことがうかがえる。また、検証授業②の2時目には「役に立ちたい」、3時目には「頼りにされた」、4時目には「自分が人に教えられて、自分を全部出せた」と記述している。単元後には「グループに自分から話そうとしたので、自分はよくなったと思う」と記述している。これは、前単元での経験から、自分の表現や友達との関わりに自信をもったことで、ペアやグループでの関わりが更によくなったからだと考える。さらに、自己評価の推移を見ると、検証授業①から検証授業②に進むにつれて、どの項目においても少しずつ高まっている。とりわけ、「今日の活動は楽しかったですか」「自分から進んで、先生や友達と関わろうとしましたか」という項目の自己評価が一度も落ちていない。これは、人との関わる抵抗感や外国語活動への不安感が軽減され、人との関わろうとする気持ちが高まっていったからではないかと考える(表3)。

表3 F児の自己評価と記述の変容

検証授業 ①・②	1 今日の活動は楽しかったですか。	2 自分から進んで、先生や友達と関わろうとしましたか。	3 英語をよく聞き、何を言っているのかを考えて活動しましたか。	4 英語を使ってみたり、自分にできる方法で答えたりしましたか。	5 今日のチームワーク度(レベル)は、どうでしたか。	6 今日の自分ががんばり度(レベル)は、どうでしたか。
① 1時目	① 2 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4
2時目	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4
3時目	1 2 ③ 4	1 ② 3 4	1 2 3 ④	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 2 ③ 4
4時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ ④	1 2 3 ④
② 1時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4	1 ② 3 4
2時目	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4	1 2 ③ 4
3時目	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 ③ 4	1 2 3 ④	1 2 3 ④
4時目	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④	1 2 3 ④
(思わない…1, あまり…2, だいたい…3, 思う…4)						
① 1時目	人それぞれ聞こえ方が違うと思った。					
2時目	国などの見所はたくさんあるから、グループで一つ一つ考えていきたい。					
3時目	一つ一つ国のヒントを分担して、それぞれ精一杯がんばれた。一人じゃ難しかったので協力できた。					
4時目	前と比べて難しかったので、チームワークがよくなったから、自分の精一杯を出せた。					
単元後	前よりグループの仲がよくなり、外国語の力も付き、グループ活動が大事だと思ったから自分も上達できた。最初はあまり入れてなかったけど、難しくなって自分だけじゃ分からなくなってグループの中に入れていったから自分もグループもよくなった。					
② 1時目	ペアやグループでやったり、メモを取りながらやったらいつも以上にできたので、この調子でいきたい。					
2時目	みんなで分担して英語のところを見分けてできた。次は、自分がたくさん覚えて役に立ちたい。みんなの生活も聞いてみたい。					
3時目	一つ一つの国の時間を教えたり教えられたりしたのでよかった。それと、みんなから頼りにされたので、この調子でいきたい。					
4時目	最初の挨拶リレーのときは、忘れたとき、後ろの人が教えてくれた。カード集めは、自分が人に教えられて、自分を全部出せた。楽しかったのでよりよかった。					
単元後	前のときより、外国語の力が付き、自然とグループや他の班に関わることができるようになった。自分がやってみようと思うことが多かった。外国語をよく聞くようになった。友達にもよく聞くようになった。グループに自分から話そうとしたので、自分はよくなったと思う。					

どちらの児童にも、授業の導入に前時の活動の様子や振り返りを紹介し、友達との関わりがよくなっていることを知らせたり、活動中に担任が言葉を掛けたりして、自信と活動への意欲をもたせた。外国語を通じた取組で、聞いてみよう、伝えてみようとする、また、それを積み重ねることで、友達と一緒に活動する楽しさや友達や自分のよさ、知らなかったことが分かる楽しさに気づき、人との関わりを楽しく感じるようになったと考える。

ウ 単元を積み重ねての変容と考察

検証授業①②後のアンケート調査では、前述した友達と一緒に課題を解決していこうとしたり、よさや頑張りを見付けようとしたりすることができ、人と楽しく関わっていくことができるようになってきた。さらに、人のことを知るのが楽しい児童やあまり話したことがない友達とも話す児童が増えている(次頁図5, 6)。これは、今まで知らなかった友達のことが分かったり、知らなかったこと自体に気付いたりして、もっと様々な人に聞いてみよう話してみようとする意識が生まれてきているか

らだと考える。今後も、外国語を通じて、人との関わりを意識させた取組を積み重ねさせれば、児童の人と関わる意欲をより高め、様々な場面で生かすことができる積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てていくことにつながると考える。

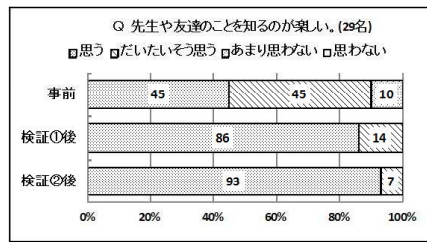


図5 アンケート結果③

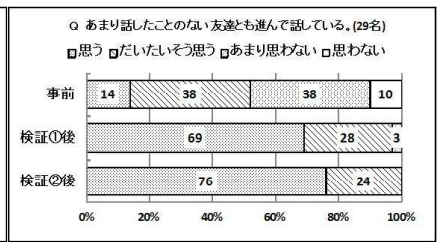


図6 アンケート結果④

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究を通して、外国語活動において進んで人と関わろうとする意欲や態度を育てるには、次のような手立てが有効であることが明らかになった。

- ・ ペアやグループで課題を解決する活動を取り入れることで、関わり の必然性が高まり、人と一緒に何かを成すことのよさを感じることができた。その際、外国語を通じたコミュニケーション活動のレベルを意図的に高めていくことが、児童に満足感や達成感を感じさせ、意欲の継続・向上につながった。
- ・ ペアやグループで課題を解決する活動と振り返りの工夫から、児童が活動への安心感や自信をもち、そのことが人と関わろうとする積極的な取組につながった。さらに、視点をもった振り返りの場の設定により、人のことを知る楽しさやよさに気付き、友達や自分に対する関心を高めることにつながり、コミュニケーションを楽しもうとする態度を育むことができた。
- ・ 活動と振り返りをつなぎ、それらの段階を意識して積み重ねていくことで、人と関わる経験が多くなっていく。経験を積ませることで、主な英語表現は変わるものの、いろいろな人と関わっていこうとすることができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・ 人との関わり の楽しさを更に見いだすことができる活動内容の工夫
- ・ 新英語ノートにおける活動内容や単元構成の工夫
- ・ 他教科との関連や評価の在り方

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』 平成20年8月 東洋館出版社 p. 7
- 2)4) 金森 強 『小学校外国語活動 成功させる55の秘訣』 2011年6月 成美堂 p. 15 p. 128
- 3)5) 直山 木綿子編 『小学校外国語活動モデル事例集』 平成23年3月 教育開発研究所 p. 11 p. 17
- 6) 金森 強 『小学校「外国語活動」の評価のあり方を考える』 2010年3月 ARCLE REVIEW No. 4 p. 112
- 7) 影浦 攻編 『小学校英語活動指導のアイテム小辞典』 2002年1月 明治図書 p. 27

《参考文献》

- ・ 佐賀県教育センター 『国際コミュニケーションの素地をつくる英語活動』 平成20年3月
- ・ 岡 秀夫・金森 強編著 『小学校英語教育の進め方ー「ことばの教育」としてー[改訂版]』 2009年4月 成美堂